



JAPAN PRIZE

2010年(第26回)日本国際賞授賞式 天皇皇后両陛下をお迎えして開催 －日本と米国の2博士が受賞－



(財)国際科学技術財団が、世界の科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人を顕彰する2010年(第26回)日本国際賞授賞式が、4月21日(水)東京の国立劇場で行われました。

今回の授賞対象分野は「工業生産・生産技術」と「生物生産・生命環境」の2分野で、それぞれ300件、248件、合計548件の推薦を受け、この中から2氏が受賞者に選ばれました。

「工業生産・生産技術」分野では垂直磁気記録方式の開発による高密度磁気記録技術への貢献をした岩崎俊一博士が、また「生物生産・生命環境」分野では窒素などの物質循環解析に基づく地球環境問題解決への貢献をしたピーター・ヴィトーセク博士が受賞しました。

日本国際賞 / Japan Prize

「日本国際賞」は、全世界の科学技術者を対象とし、独創的で飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、もって人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められた人に授与されます。

本賞は、科学技術の全分野を対象とし、科学技術の動向等を勘案して、毎年2つの分野を授賞対象分野として指定します。原則として各分野1件、1人に対して授与され、受賞者には賞状、賞牌及び賞金5,000万円(各分野)が贈られます。

授賞業績

垂直磁気記録方式の開発による 高密度磁気記録技術への貢献



岩崎俊一博士

1926年8月3日生まれ
東北工業大学理事長 / 東北大学名誉教授

受賞者挨拶

この度、天皇皇后両陛下のご臨席のもと、ヴィトーセク博士と共に栄えある日本国際賞を受賞することを誠に光栄に存じます。

国際科学技術財団の理念は、科学技術の顕著な実践的業績を通じて、人類社会の平和と繁栄に貢献した人々を顕彰することと伺っており、これは歴代の優れた受賞者の方々からもよく理解できることであります。

この度の垂直磁気記録に関する私の受賞は、ハードディスク装置の記録容量を大幅に増やし、かつそれを工業生産して、社会に広く普及させたことを評価されたもので、これまでの永年に亘る多くの協力研究者とともに、この上ない名誉と考えております。この技術が将来に亘っても、真に「文明の利器」として社会に貢献できるよう、今後も研究を続ける所存であります。

最後に、国際科学技術財団 伊藤正男会長、吉川弘之理事長、また審査に当たられた小宮山宏審査委員長および審査委員の方々、さらにご参列いただきました皆様々に心からの感謝を申し上げ、受賞のご挨拶といたします。

授賞業績

窒素などの物質循環解析に基づく 地球環境問題解決への貢献



ピーター・ヴィトーセク博士

1949年1月24日生まれ
スタンフォード大学生物学部教授

受賞者挨拶

天皇皇后両陛下、ご来賓の皆様、そしてご来場のすべての皆様。

科学技術の分野で世界的に権威ある賞の一つである日本国際賞を受賞し、この賞を受賞された著名な方々に私の名を連ねることを大変光栄に思います。

本日一緒に受賞された岩崎博士を含め、日本国際賞は世界を変えた数多くの偉大な方々に贈られてきました。この度は、国際科学技術財団が「生物地球化学」を授賞に相応しい分野と認めていただいたことに感謝の意を表したいと思います。

生物地球化学においては、いかに人類が地球を席卷しつつあるか、そしてその活動が両刃の剣の性質を持つものであるかということ、否が応でも強烈に認識させられます。今回の受賞は、数多くの活発な研究者達が、これまでの地球の病状について慎重に分析するという研究から、健全で持続可能な環境への道筋を示す研究へと本質的に変革したことが認められた結果であると思います。

私のパートナーであり妻であるバメラ・マトソン博士は、スタンフォード大学におけるこの研究領域と研究所の活動の中で、こうした変革をリードしてきました。本日、彼女がこの式典と一緒に列席し、言葉を交わし合っていることを大変嬉しく思います。改めて、「生物生産・生命環境」分野で、2010年日本国際賞を受賞させていただきましたことを心より感謝申し上げます。

授賞式

授賞式は天皇皇后両陛下をお迎えし、衆参両院議長、最高裁長官、駐日大公使、学者、研究者、政官界、財界、ジャーナリスト等約1,000名が出席して、東京・国立劇場で行われました。

財団の吉川理事長による主催者挨拶の後、小宮山審査委員長から審査結果報告および受賞者の紹介が行われ、「工業生産・生産技術」分野は前田審査部会長、また「生物生産・生命環境」分野は岩槻審査部会長から贈賞理由の説明がなされました。その後、日本国際賞の賞状、賞牌および副賞5,000万円が財団の伊藤会長から両受賞者にそれぞれ贈られました。受賞者挨拶の後、三権の長を代表して横路衆議院議長が祝辞を述べられました。最後に両受賞者ご夫妻は天皇皇后両陛下とともに客席で東京藝術大学音楽学部学生オーケストラによる記念演奏をお楽しみになられ授賞式は閉会となりました。



式典の様子



伊藤会長 贈賞



記念演奏



横路衆議院議長
祝辞



吉川理事長
主催者挨拶



小宮山審査委員長
審査結果報告



前田審査部会長
贈賞理由説明



岩槻審査部会長
贈賞理由説明

祝 宴

授賞式に続き、東京・ホテルニューオータニ「芙蓉の間」において天皇皇后両陛下ご臨席のもと、三権の長、関係大臣、駐日大公使および各界から約300名を招いて、盛大に祝宴が催されました。

冒頭、天皇陛下から受賞者の栄誉をたたえ、乾杯のご発声を賜りました。

食事と歓談の後、三権の長を代表して江田参議院議長から両受賞者に対する祝辞が述べられました。

最後に両受賞者から謝辞が述べられ終宴となりました。



■ 天皇皇后両陛下ご臨席



■ ご懇談される天皇陛下



■ 江田参議院議長 祝辞



■ 岩崎博士 謝辞



■ ヴィトーセク博士 謝辞

日本国際賞週間

4.19【月】



財団主催歓迎レセプション



米国大使館カクテルレセプション

4.20【火】



日本学士院表敬訪問



内閣総理大臣表敬訪問



財団事務所訪問

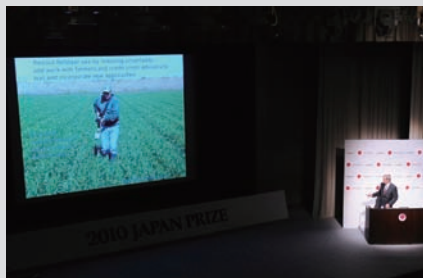


学術懇談会

4.22【木】



受賞記念講演会(岩崎博士)



受賞記念講演会(ヴィトーセク博士)

4.24【土】



京都の休日





JAPAN PRIZE

2011年(第27回)日本国際賞

2011年(第27回)日本国際賞授賞対象分野は「情報・通信」および「生命科学・医学」の2分野です。

世界各国の推薦人から数多くの受賞候補者の推薦書が寄せられ、財団に設置された日本国際賞審査委員会による厳正な審査が行われています。受賞者の発表は2011年1月、授賞式は同年4月に予定されています。

領域Ⅰ(数学系、物理学系、化学系、工学系) 授賞対象分野:「情報・通信」

背景、選択理由

コンピュータはその登場から半世紀以上経過し、ネットワーク技術との融合により実社会の情報のほとんどすべてを扱う情報通信システムへと発展しました。それらは市民生活、経済社会活動を支える重要な社会インフラとして、科学技術の一層の進歩をもたらすとともに、新しい文化の創造に貢献してきました。こうした中で情報通信システムの信頼性や安全性などの向上は、社会の安全、安心と生活の利便性にとってますます重要な課題となっております。地球規模での知識基盤社会の発展と繁栄には、こうした新たな課題への取り組みとともに、ソフト・ハード両面からの情報通信技術のさらなる発展、普及が期待される所です。

対象とする業績

2011年の日本国際賞は、「情報・通信」の分野において、飛躍的な科学技術の進展をもたらし、新しい産業の創造、生産性の向上などを通じて、生活の利便性や安全性の向上に寄与するなど、社会に大きく貢献する業績を対象とします。

領域Ⅱ(生物学系、農学系、医学系) 授賞対象分野:「生命科学・医学」

背景、選択理由

ここ半世紀の生命科学ならびに医学の発展は、生命機能の理解、疾患の病態解明、治療技術の確立、医薬の開発に多大な貢献をしてきました。その結果、平均寿命は飛躍的に延伸するとともに、生活の質の向上をもたらしました。しかしながら、いまだに治療困難な疾患も少なからずあり、長期療養や後遺症に苦しむ患者も多く、生活の不安や貧困、社会経済への負担増大につながっています。さらに、マラリア、結核などが依然として猛威を振るう一方で、エイズなどの新興再興感染症が社会を脅かしています。生命科学、医学のさらなる発展によりこうした問題の解決が期待される所です。

対象とする業績

2011年の日本国際賞は、「生命科学・医学」の分野において、飛躍的な科学技術の発展をもたらし、生命機能の理解、新しい医療の創造・普及、新規医薬の開発・生産を通じて、疾患治療、健康増進に寄与するなど、社会に大きく貢献する業績を対象とします。

国際科学技術財団とは

財団法人国際科学技術財団は1982年に設立され、日本国際賞による顕彰事業のほかに、一般の方々を対象とした「やさしい科学技術セミナー」の開催や若手科学者の育成のための研究助成など科学と技術の更なる発展に貢献するための活動を行っています。

※ 研究助成

日本国際賞の授賞対象と同じ分野で研究する35歳未満の若手科学者を対象に、独創的で発展性のある研究に対し、助成を行っています。将来を囑望される若手科学者の研究活動を支援・奨励することにより、科学と技術の更なる進歩とともに、それによって人類の平和と繁栄がもたらされることを期待します。

※ やさしい科学技術セミナー

私たちの生活に関わりのある、様々な分野の科学や技術について、その分野の専門家にやさしく解説していただきます。講演ばかりでなく実験室の見学なども行われ、学生や一般の方を対象に年10回各地で開催しています。

※ スtockホルム国際青年科学セミナー

ノーベル財団の協力でスウェーデン青年科学者連盟が毎年ノーベル賞週間にストックホルムにおいて開催する「ストックホルム国際青年科学セミナー(SIYSS)」に1987年以降、毎年2名の学生を派遣し、世界各国から派遣された若手科学者との国際交流の機会を提供しています。